

ぼう ちょう しゃ

傍聴者の声

傍聴者数のべ30人



三宮 美香 (高尾野)

必要な議題を前に進めてほしい

まず、議会を傍聴するのに仮設の議場となっているオークスに行つて驚いたのは、傍聴者が少なかつたことです。

地震のあとなので、復興などのことについて皆さん意識が高くなっているかと思つていましたが、まだ忙しくて議会に傍聴に行くところではなかつたのでしょうか。

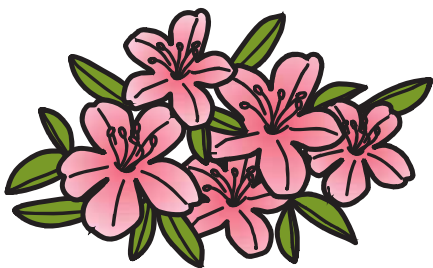
ただ議会自体も、議決しないといけない事がたくさんありすぎたのか、私たち一般人が聞いてもよくわからないような議案が多くあり、今回の議会は、一般の私たちには難しかった気がしました。私も時間がなかったの、最後までゆっくり聞く時間がなく、残念でした。議会を傍聴したり、議会、だよりを読んだりして、いつも思う事は、議会で議論する事は、町全体の事になるので仕方ないのかもしれないが、私たち子育て世代が関心を持つている内容が少ない

という事です。

数年前に比べれば、議員さんたちは私たち町民の声を拾い上げてくれていたとは感じますが、教育のこと、子育てのこと、医療のことについて、取り上げられても結局はその場で終わつてしまい、その後の検証がどうなつているのかもわかりません。

また、タイムリーな議題も少ないような気がしています。

時間は流れているので、今、必要な議題を前に進めてほしいとも思います。



特集

尚綱大学生によるレポート 6

「震災と復興と選挙権」のシンポジウムに参加して

9月25日に大津町文化ホールで「震災と復興と選挙権」若者とともに考える地域の未来」のシンポジウムで登壇しました。講師に選挙プランナーの松田馨氏をお迎えし、1部の講演会では「あなたの1票が社会を動かす」のテーマで、「投票率の現状」や「投票に行くことの意義」などについて聞きました。

第2部では、「若者と共に考える地域の未来」をテーマに、大津高校、熊本県立大学、尚綱大学から各2名ずつの学生6名によるパネルディスカッションが行われました。このディスカッションでは、「どのような基準で投票するのか」、「どのような働きかけを行えば若者が政治に興味を持ち投票へ行く気になるのか」といった若者の政治への関心に関する質問や、「復興期における政治や住民が果たすことのできる役割」などの様々な意見を交わしました。

このシンポジウムに参加して、政治に関する若者の無関心を改めて感じました。講演の中で初めて、若者が選

挙に行かないので選挙で得票する必要もある政治家は、人口も多くて投票率も高い高齢者向けの政策を優先的に行う傾向がある「シルバー民主主義」という言葉を耳にし、政治への無関心が招く相対的な「損」について学びました。若者の意見を聞けば、「自分だけが投票に行つたって」、「自分たちにメリットがあるのかわからない」などの声があり、私も少なからずそのような考えはありました。

しかし、今回のシンポジウムで自分の1票の大切さを感じました。政治と聞くととても遠い話のように感じますが、まずは投票へ行き、自分の目で見て、自分自身で考え、意見を述べることがとても大切であり、その一人ひとりの考えと行動で、未来を変えることができるのだと強く感じました。

